蒼の王子と紅の花
R18
ADULT ONLY
PRESENTED BY TORANO
KARAMATU'OSOMATU
OSOMATUSAN UNOFFICIAL FANBOOK

ここは
月と砂漠の地
幻想と魔法に満ちた
不思議な世界

大陸一小さいが
もっとも
美しい雨が降ると
謡われた蒼の国には

どうか…っ

今日も悲鳴が
響き渡る――…

おゆるしを
王子様
どうか…っ

ひいっ

おー!!
彼女は一松が送って帰したぞ～
ぼ!!
ぼ!!
俺らは王宮付の踊り子で王子サマの尻ぬぐい係じゃねーんだけどね？
おそ松…
うわ
また飲んでんのぉ？
弱いくせに…
ひっ
なぜだ…
オレは…確かな愛が欲しいだけなのに…なぜ伝わらないんだ

そりゃ…

ちらっ

召し上げといて鎖で繋いだら愛もクソもないんじゃね？

お相手がいいとこの出じゃなおさらさぁ

いや真の愛の相手なら嫌がらないはずだ！

キッパリ

ストー

えー…その発想が怖ぇえよお前

オレは旅人…愛という花を探し砂漠を彷徨い続ける

オレだけのために咲く一輪の花を

だが皆が怯え去っていく…

誰もオレを愛してはくれないんだ

永遠なるエブン・ザビール…

これがオレの宿命なのか…っ

あーハイハイ

そーねえ大変だねぇ

よーしよし
だいじょーぶ

今回も
違ったみてー
だけど

いつかきっと
見つかるって

…ああ

そう、だな

フッ…
待っててくれ
まだ見ぬ花よ！

このカラ松が
見つける日まで！

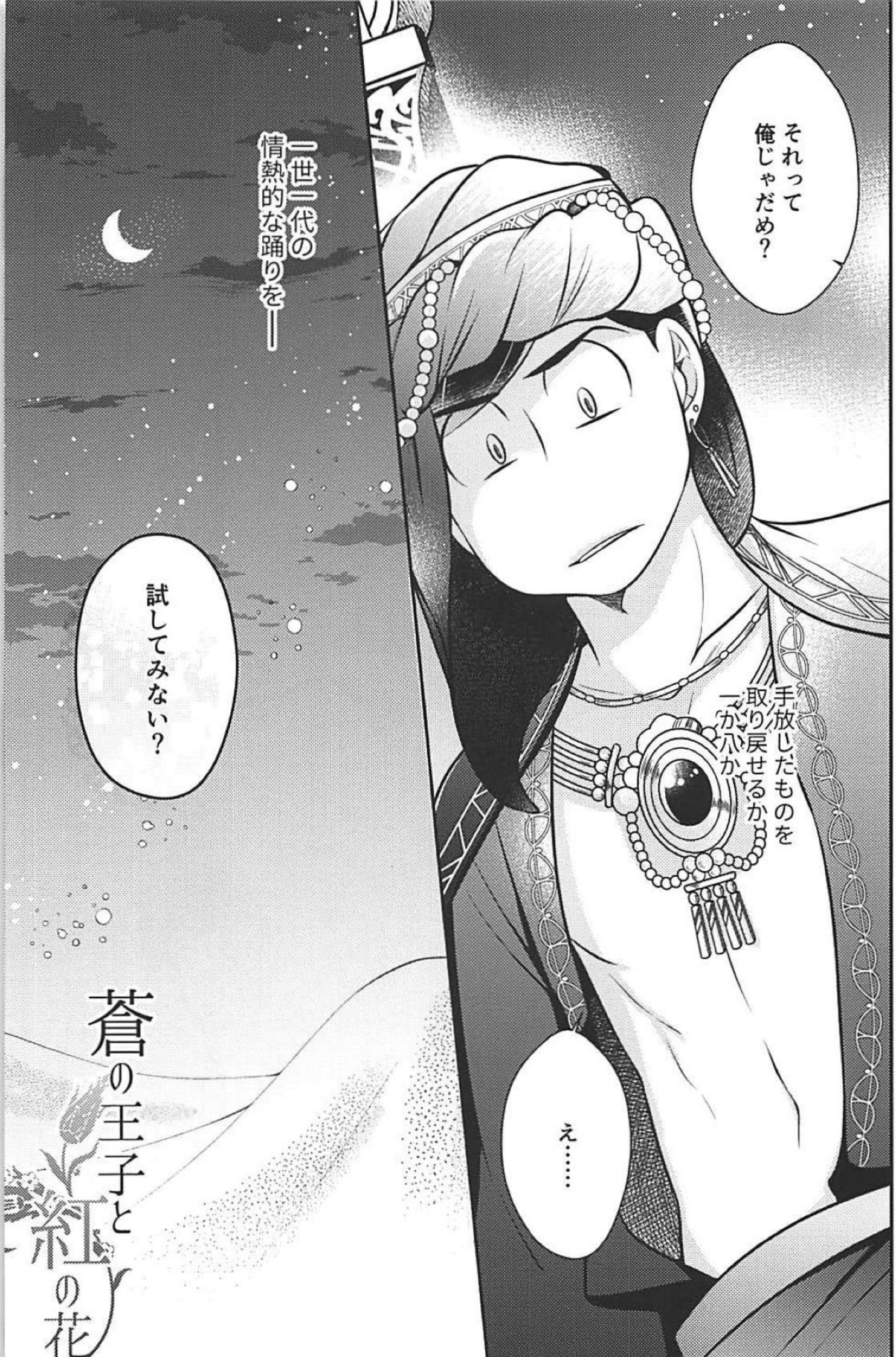
すっく

きゃー
素敵〜
カラ松王子ぃ〜ん

—俺は
これからバカを
やろうとしてる

…いーよ
ていうかさぁ

…いつも
すまんな
おそ松


それって俺じゃだめ？
一世一代の情熱的な踊りを―
試してみない？
手放したものを取り戻せるか一か八か
え……
蒼の王子と紅の花

はぁ〜
ピー

やっちゃったぁ

本当に
やっちゃったよ

覚悟してたとは
いえ…

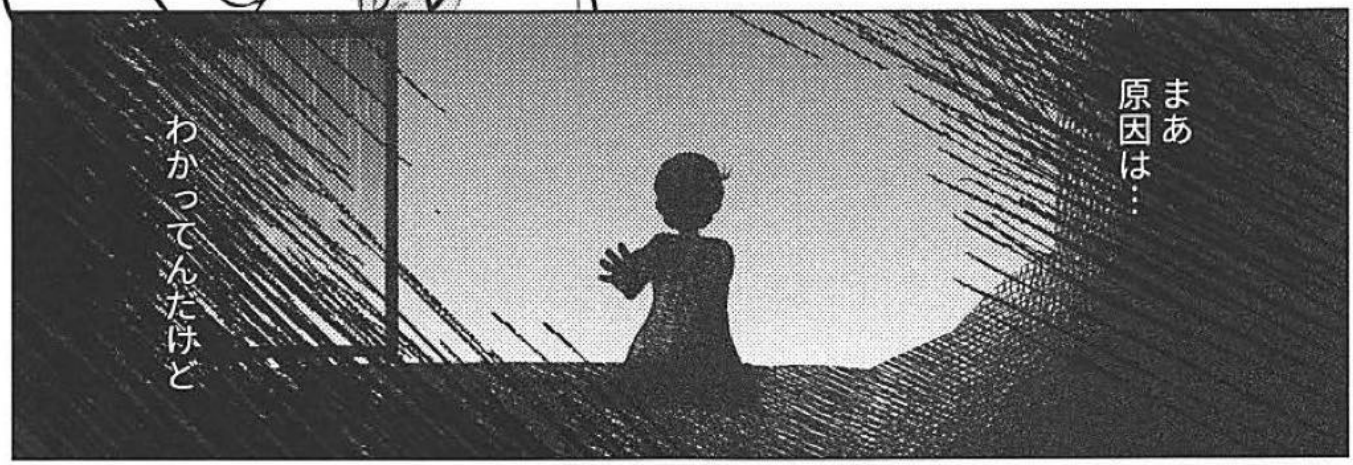
ケツに入るもん
なんだなー

やぁ〜〜

ジャラ…

本気、なのか…？

ていうか
初めてなのに
気持ち良かったし
枷は冷たくて
重いのに
カラ松の手は
燃えるように熱くて
優しかった
ラブ
すぎーアト
拘束具なんか
持ち出さなきゃ
男も女も
なびくだろうに


まあ
原因は…
わかってんだけど

ジャ…
魔道具かぁ
本格的ぃ
ほ!
ん!…
ギイ
うっわ
嘘でしょ
おそ松兄さん
本当に
やっちゃったの

おー
トド松

ふわ
ふながれてる…

ぴく…

王子が
朝の支度をボクに、なんて
おかしいと思ったら

実兄が加虐王子の
娼になったのを
嘆くべきなのか
悩むわ〜

ゴト

はあ？

加虐王子ぃ？

妻の座をエサに
夜伽に召し上げては
奴隷のように
鎖で繋いで愉しむ
って噂

ここ何年かで
広まったらしくて
夕べの子も帰り際
怯えちゃって
大変だったんだから

実際は
ほど遠い性格なのに
皮肉だねえ

ちょっと！
少しは
恥じらってよ！

はっ
ふふって

ベッ

ちゃ

まあ、確かに
乳兄弟の
ボクらにはわかるけど

噂の半分は
事実でしょ

おそ松…
裸になるんだ

それより！
これからどうすんの

はっ

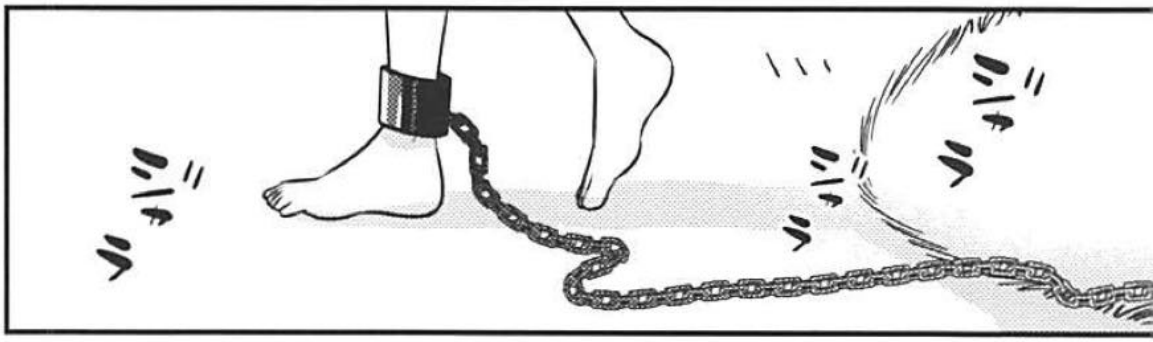
鎖に繋がれて
王子の愛娼でも
目指すの？

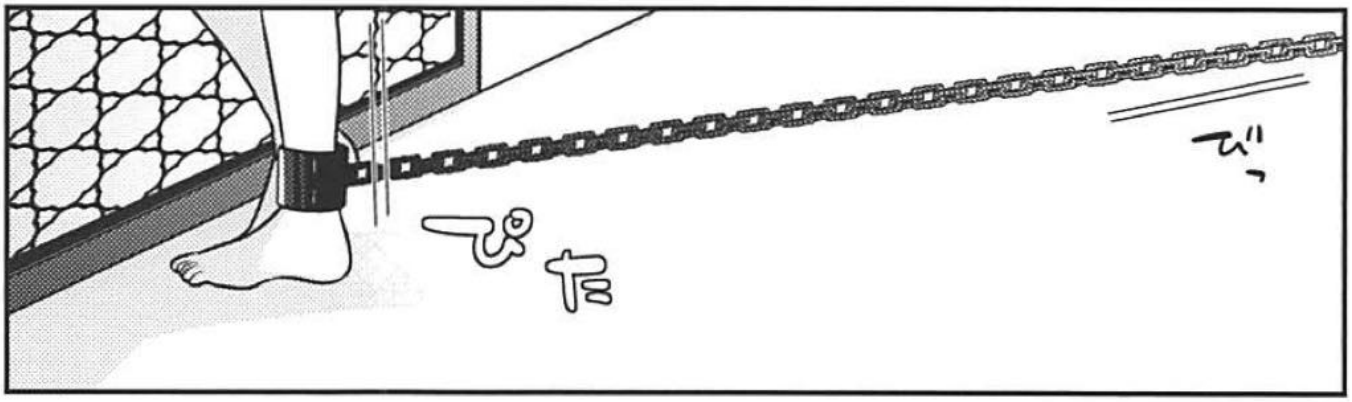
仕事（踊り）は？

まーまー
トド松ぅ

これであいつ
奇行も当分
治まるだろー

しばらくは
兄ちゃんの
好きにさせてよー


ジャラ
ジャラ
ジャラ


ぴた
ぴっ

フーン
ここまでか
——おそ松
ぴくっ
ナビ
腹一杯
メシ食って
ぐーたら
して
囲われる
楽な生活だ
…ヒマだけ

へ？え!?
カラ松…!?
んだよぉ
びっくりさせんなよ
いつの間に
…すまん
ぎゅ

なに
もしかして
逃げると
思った？
……
ふぁっ
逃げないって！
俺が言い出しっぺ
なんだから

あんなことされて…
嫌じゃなかったのか？
オレに…
その身体を…
嫌だったら
ここにいない、
だろ？
大事な商売道具に
枷と鎖までつけてさ
だーか

もー
そんな顔すんなよ

昨日も見た表情

王子様なのに
しょうがねえなぁ

！

乳兄弟を
娼婦のように抱いた
罪悪感？

疑心？

…なんならさ
今すぐもっかい
確かめる？

…あぁ…

でも
俺が見たいのは
そんな顔じゃない

俺が
取り戻したいのは―

ちっ
にっ
ちっ
にっ

ぢゅーっ
ぢゅるっ
ぢゅー
ん♡
きもちい…
ぢゅぷっ
ぢゅ
またへんなこえでそぉ…
…少し腫れてるな
香油を使うが…今は痛くないか？
ん…へーきいれて
あ
なぁ
ぷぷ
ぬ…

から、まつぅ…？

ぐぃっ

踊るお前が美しいのは幼い頃から知っていたが…

こんなに愛らしく乱れるとは知らなかった

はぁ はぁ

ぐちゅっ ぐちゅっ

もっと見たい…見せてくれ

いーよぉ…

きて♡ 俺はお前の『花』なんだから

踊り子ふぜいと戯れるようなお子だこの先どうなるやら…
——まさか王と妃が亡くなるとは隣国への道中だ本当に事故なのか？
王の弟君が代理として玉座に座られるそうだ
王子は部屋に閉じこもって一度も出てこぬらしいぞ
ん〜〜！
ムグ
おそまつ…ねむれない…

夢を見るんだ…

雨の音がして…父上も母上もおそ松もみんな…

みんないなくなって…怖いんだ…っ

ばっかだなぁだいじょーぶ

おれはここにいるじゃん

お前もおれの弟だもんおいてかねーよ

…弟の中でいちばん…？

んー…一番！だから次男だな！

怖い時は必ず一緒にいてやるから

もう泣くなよ？

純粋で可哀そうな王子様と

不釣り合いな踊り子（乳母）の息子

あの頃の俺たちは乳兄弟という以上に特別な何かで繋がっていた

おそ松
ぼくもお前が
一番だ

おそまつ…っ

そう―
気付いてなかった
だけで
好きだった…

本当に…っ

オレの花になって
くれるのか…っ

っぷぁ…
なる、ぅ…っ

オレを愛して
くれるのか…っ？

俺が
取り戻したいのは

うん…っ
うん…っぁひ

おそ松…待って

おそまつっ
おそまつ…っ

俺が壊し

『お前』だ――…

――娼婦に転職したって？

はぁ？

だらり

トド松にそう聞いたけどホントかよ

ずーはーはっ

やぁーねーチョロちゃん俺の職業は踊り子よん

食っちゃ寝してるようにしか見えねーけどな？

てか股くらい閉じろや！よくそれであいつを誘惑できたね!?

おっさんかよ

えーちゃんと布で隠してんじゃん

地のがさつさ故に唯一色の声がかからなかったおそ松兄さんが…

はー

てか、どーよあいつの奇行治まってんで

…まあ
この五日
僕らの出番はないね

毎年この時期は
日を空けずに
召し上げてたから
快挙だよ

もうすぐ
やってくる
不思議な青い雨

この国で毎年
必ず一日だけ
降り続ける

カラ松の両親が
亡くなった日

そ

そして

俺があいつの
手を離した日

あいつがさ
おかしくなったのって
八年前、王が崩御されて
からでしょ

引きこもったり
突然口調や身振りを
変えたり

泣き虫で兄さんに
べったりだったのが
今や女性を
鎖で繋ぐ始末だ

…あいつに対して
思う所があるのは
知ってるけど

辛くなったら
すぐに
帰ってきなよ

八年――
カラ松にとって

今さら
言葉なんかじゃ
足りないだろう

だから
体で示すしかない

おそ松
口を開けてく

んむ…♡

俺が今もお前を好きだってー

ぬ

ぷちゅ

ぢゅるっ

ぢゅ

〜〜〜っ

ちゅぱ

ちゅぱ

ん

ん

ぢゅるるっ

ぷぁ…

はぁ

はぁ

ちゅぱ

…なぁにぃ急に

その舌の味を確かめたくなってな

はぁ

毎朝毎晩確かめてんじゃん

ん

召使いもいない二人きりだいいだろう？

何度してもフ…足りない

このひと月――
オレの頭はお前を
どう踊らせようかで
いっぱいだ

罪な花だな
ハビーブ…

あ♡

びくっ

にゃぷっ

こんな簡単に
指を飲み込むように
なって…

やぁ
おゅ…っ

じっくりと
愛でれば
愛でるほど
オレの形になる

快楽に悶えるお前を
ずっと見ていたい

びくっ

ひっ♡

あ

ぴくっ

ぷるっ

ちゅっ

ちゅっ

広間でお前の
燃えるような舞踏
見れないのは
残念だが…

ん…

は…

…じゃあ
鎖、外してみる？

なんか…
逃げたくなったなら言えばいい
ばっか…ちげーよ…
俺はお前の花だろ？
離れたりしない
ちゅ
ジャラ…
ああまだか
——外さない

どれだけ踊れば
お前に伝わる
んだろうな

ザァァァァァ

——あー…

とうとう
降ってきたね

この雨
魔法使いの
仕業って
ホントかなぁ

ま、今日は
皆外に出ないし
宮内も静かだね

ボクは
転職したアホ長男の
お世話で忙しいけど

してねーって

繋がれてる
からって
食っちゃ寝
食っちゃ寝

ちょっと
太ったんじゃない!?

ぴぃ

キィ…

モぎ
モぎ

おそ松兄さん

一松、十四松!?
ひさしぶり〜

元気でっかー!
おそ松兄さん!

おー
元気元気

お前らも
元気そーね

わしゃ
わしゃ

わぱー

くん

にーさん
いろっぺー
匂いっス!

さすが
王子を虜にした
魔性の踊り子ですな!

えーそお?

あ、トド松
酒おかわり〜

なんで
ボクが!?

どこが魔性!?
ただのろくでなしだよ
もーっ

…てか
なんでそんな
巻いてんの?

嫌いでしょ
そういうの

ブッ
ブッ

ああこれ？
カラ松が肌見せんなって言うからさぁ
ばりぼり
…ふーん…

おそ松兄さん…
いつ帰ってくんの

皆、待ってる
あー…
もう二度と俺がカラ松の手を離すつもりはな
そーだな

ごめん
もーちょっと、な

よしよし

だいじょーぶ
そのうち
戻るって

お前らは
大事な弟
だかんな

けど

いつまでも
踊り続けてられないのも
事実だ

ザァ

ヒタ、ヒタ、ヒタ

ん

ふぁ…
からまつぅ…？
おそかったじゃん

ゴロ

すぐもどるって
ゆったのに

さっき一松たちがきて――…
ギュッ
え、な、に…なんでんな濡れてんの
ポタ…
青い水…雨？
頭を冷やしていた…
冷やすってなんでこんな日に…
おそまつ

……え？

…なあ
おそ松

どうして
お前はオレの
心をかき乱す

オレは必死に
探していたんだ
確かな愛を

なにがあっても
オレだけを
愛してくれる花を

『お前じゃない花』を

だがもう遅い お前はここから出さない

二度と弟たちにも会わせない

永遠にオレが閉じ込めて踊らせてやる

カ、ラ松 急になに…

股を開け

は…

聞こえなかったのか

股を開くんだ おそ松

オレを受け入れろ

いぁ…っ

ひ、ぐ…っ

う

痛い

ひ

痛い
痛い
痛い
あ
あ
今までどんだけ丁寧に抱かれてたのかわかる
バ
なんで急に…？俺、怒らせた？
か、ら…ぁ
からまつ…ぅ
わかんねえよ
ブル
ブル
は
ちゅう
でも
……っ！
ちゅう
ん
ん
ぎゅ
ふ
ちゅう
ちゅう
ちゅう
お、…そ
まつ
どんなに酷くされても俺は…
ズル
ズル
な、んで

なんで抵抗しない…っ

なんでお前はいつもそうなんだ！

オレを受け入れておいて！

結局本物の弟たちの元へ行くくせに！今も昔もだ！

あの時も…っ

おそまつ…

今日は朝までいてくれる…？

ん…またねむれないのぉ

父上と母上が天に召された日だから…

いーよ 約束したじゃん 一緒にいてやる

何があってもそばにいるから

安心して寝ろよ

う…ぁ…

ぱち

…カラ松…？

いや、だ…

いか…な

ぐ…

カラ松…

おい 起きろ

カラま…

おそ松兄さん…っ

どうしよう…っ

チョロ松兄さん熱を…

チョロ松が…!?

オロ
オロ
すごく苦しそうで…っ助けて兄さん

落ち着け今行くから…!

おそ、まつ…?

おそ松…っ

どんな約束も無意味だ

待って…

オレが愛する者は皆去っていく

誰もオレを愛してはくれない!

お前も!

か、ら…まつ…

あの頃の俺は
なにもわかって
なかった

約束の重さも
カラ松の気持ちも
自分の気持ちさえ

二度と寝所に
呼ばれなくなっても
表面上は何も変わらず

女を召し上げる
ようになって

皆がカラ松の
異常な部分に怯え
逃げ出すさまに
やっと気付いた

俺があの日
こいつを
壊したんだと

—でも

その時俺が
感じたのは
罪悪感なんか
じゃない

オレの花になると
オレを愛してくれる
と言ったな…

どれだけ長い間
その言葉を
求めていたか

だが、お前は
その甘い体を
オレに与え

また信じさせて…
突き落とすんだ

鎖を外す…？
閉じ込めなくても
愛してくれるとでも？
一度手を離した
お前が
弟たちより
オレを！
答えろ
おそま…
なあ…っ
俺が感じたのは――悦び、だ
俺という存在が
壊れるほど
心を占めていた証
そして
俺がカラ松に
向けていた
感情の正体
お
そ、ま
それは
積り積もっ
醜くゆがん
いたけれど

それでも確かに

あいしてるよ…

カラ松

愛、だ――…

俺は弟たちが大事だし

あいつらに何かあったらまた行くと思う

でももう昔みたいにお前を放ったりしない

その時はさ一緒にきてよ

カラ松

いっしょ、に…？

ぺたん…

そお

俺ね
お前のことは
弟じゃなくて
愛してんの

一緒にいたい
独占したいし…
されたい

ちゅ
ちゅっ

気持ちいいことして
お前といっぱい
愛し合いたい

特別なやつ…

わかる…？

すっ…

……うん

ぶはぁ

『うん』って
昔みてー

かーわ…♡

おそ松

ああ
やっと…

だからさ
お前の花で
いさせてよ

まだお前も望んでくれるなら

『俺のカラ松』が戻ってきた!!…

ああ…

望む…　ずっと望んでた…

ぎゅ

昔から欲しかったのはお前の愛だけだ…

オレのヌール(光)…オレの憧れ…幼いオレの全て…

弟でいいから一番に愛してほしいと願うほどに…

ずっとずっとお前だけを

ん…よかったぁ

ジャラ…

あいしてる…愛してるおそ松…

ん♡

ちゅっ

ん♡

ちゅぷ

ちゅぱっ

ちゅっ

ちゅっ

あ…ふ、ぅ…

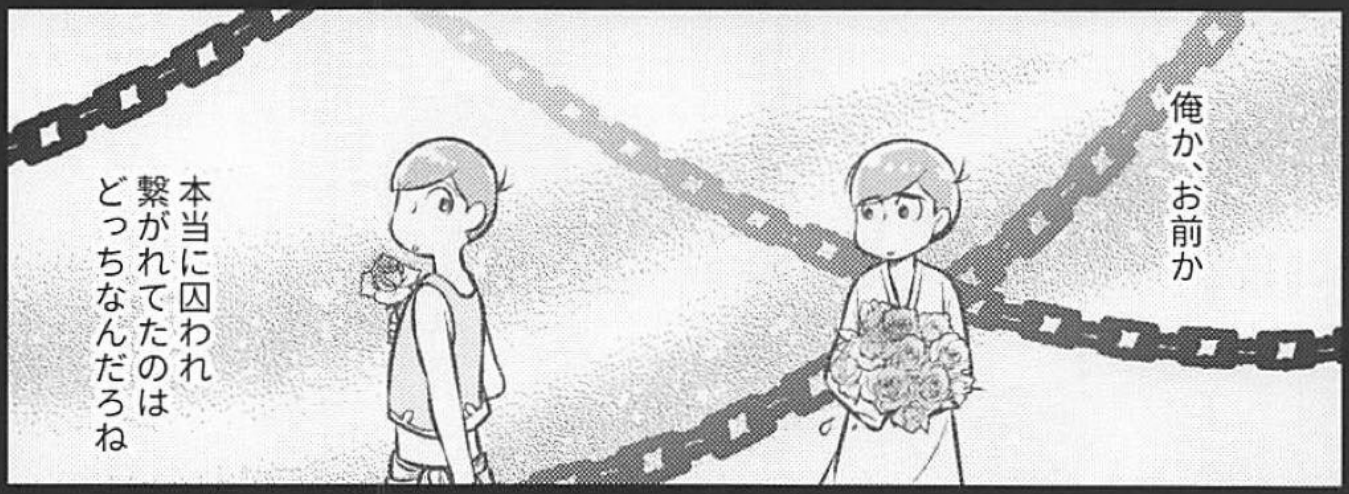
さっきは無理にすまなかった…
やり直させてくれ
はぁ
隅々までお前を愛したい…
から、まっ
キュウウ
まって…っ♡
…おそ松…？
スルル
もぴぴ
ぁ
だめ…まってぇからまっ
ゴクン
ね…鎖…片足だけにしてもっとちゃんとお前としたい…
ギ…
ギシ
おそ、ま…っ
ぬるる
あは

どお？
きもちいぃ…？
ぬちゅ
ぬちゅっ
ぬちゅっ
ぁあ
ん
ああ…
オレの上で
踊るお前は最高に
官能的だ

ずっと
眺めるだけだった
弟としてさえ
一番に愛されないなら
唯一の男として
愛してもらえる
はずもない…
お前が舞うたび
この手に
入らない花だと
思い知らされて

他の男のものに
なっていたら
気が狂ってたかも
しれない
ちゅ…

ばかじゃね？
俺に声かける物好きなんていねーってば
ちゅっ ちゅっ
踊り終わるとがっかりするって言われんだから
こんなのお前にだけ…ぁ
ぁ♡
はぁっ
ちゅぱ
ちゅぱ ちゅぱ
ならどうかこれからもそうしてくれ
オレの…オレだけの花…
あ♡
ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ



あ
あ～あ～
じゅぽっ
じゅぽっ
あ～あっ
じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ

はぁ
おそ松…
綺麗だ…
おそまつ…
はぁ
んぁ
はぁ

ここも
ずっと蜜が溢れて…
感じてくれてるんだな

ひ、ぁ…っ!?

さわっひゃ…
らめ…ぇ♡

オレも
気持ちいい…

お前がオレを
愛してくれてると
思うだけで
達してしまいそうだ…

いーよ、ぉ…
だして…よぉ

からまつの
おくに
ちょおだい…♡

……っ

いっぱい
あいしあお♡

ぐ…っ
っ♡
っ〜〜…っ♡
ドプッ
ドプッ
ドプッ
ぐぐぐ
……は…おそまつ…
はー…はー…
あ♡
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ふぁ♡
ちゅ
ちゅ
ちゅ
…大丈夫か？おそ松
なで
ちゅ
……んへーきぃ…
へへ。いっぱい出たねぇいーこぉ…♡
おそまつ…
は…
へ…？
え、ぁ
ぐちゅ。ぐぐ。
ぐぐぐ
か、ら…っ
も、お…？
だめか…？
はぁ…
だめ、じゃないけどぉ
ぬぬ
ぶぷぷぷ
は、ぁあ…♡
あ

ぷんぷん
ぷんぷん
フーン
フーン
んぷぅ
フー
フー
ぐぢゅ
おそ松…
おそ松…
はぁ
ジャラ
あっ
ひ
はぁっ
おそまつ…
あ
ジャラ
はぁ
からまつぅ…
あぁ…ぁ♡
ひもちいいよぉ…
からまつぅ…
はぁ
はぁ
ゆさ
ゆさ
はぁ
おそ松…
愛してる
あいしてる
いくら
愛しても足りない…
もっと
お前が欲しい
おそ松
すり

俺か
お前か

二人ともか

例え
どちらが
繋がれてたとしても
関係ない

…いーよぉ
俺は
お前の花だもん
いくらでも
あげる…

だって今
心を繋いで

こんなに
幸せなんだから―

愛してる

俺の王子サマ…♡

バサバサ

見て
チョロ松兄さん
雨あがったよ
ここは
月と砂漠の地
幻想と魔法に満ちた
不思議な世界
もっとも
美しい雨が降ると
謡われた蒼の国には
孤独な王子がいました
彼はずっと
花を探し求めて
いました
彼のためだけに
咲く花を
けれどある日
彼は思い知った
のです

探し求めていたものは
最初から手の中に
あったそれなのだと
枯れかけて
崩れ落ちそうなそれが
美しさを取り戻し
王子はお返しに
自分の愛を
捧げました
たった一人
王子を
満たすことのできる
紅き花に——

それ以降
二度と王宮に悲鳴が
響くことはなかったという――…

Colophon◇2017.12.30
印刷：緑陽社
発行者トラノ（PIXIV：15111120）@torano_20
※この作品は二次創作であり、全てフィクションです。実在の人物や団体などとは一切関係ありません※

【禁止】
無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載（ネットオークション・フリマアプリ含む）

PROHIBITIONS
Unauthorized copying, reproduction and modification of the contents (texts & images including those on the cover) of this book
Uploading of the photographs and copies of the contents (texts & images including those on the cover) of this book to the Internet
(You also cannot post them on Twitter)You also cannot put up this book for online auction.

たぶん最初から
オレは
『おそ松』が欲しかった

オレの周りは物に溢れていても何かが足りない

王子と言ってもオレの中にはなにもなくてからっぽで

父と母以外信じられる者も頼れる者もいない

その両親とで中々会うことはできなかった

でも——

よろしくな！カラ松！

ニヒッ おそ松！

お前もおれの弟なんだって！

だからにーちゃんの言うこと聞くんだぞ

オレの空洞をおそ松が埋め満たしてくれた

おそ松がおそ松だけが

オレの手を握って連れ出してくれたんだ…

すげー！壮観～

気に入ったか？

おう♡
一回乗って
みたかったんだわ

魔道具は
金持ちしか持てない
からさ～

ヒュウ

欲しいなら
贈るぞ？

ホントぉ？

あ、だめだ
チョロ松に
怒られる…

ちょっと！
それ
どーしたの!?

もらってるなはは～

はぁ？

この前
お前にもらった
首飾り見て

自重しろって
怒り狂ってた
から

ちっ

自分は贔屓の
お大臣様から
受け取ってるくせに
さぁ

…あまり目立つと
お前の立場が
悪くなるかもと
心配なんだろう

オレの専属
してしまっ
しな…

はぁ？

今更ぁ

遊びでなく
本気と知れれば
厄介なこともあるさ

父と母が死んでから
この国は
叔父が王の代理を
務めている

二十になるまでは
王子という立場で
放任してくれる
約束だが

元々評判の良くない
オレよりも
すぐにでも
叔父が真の王となるべき
という声も多い

実際
対外的にも
叔父が王である
認識が広まってる
だろう

彼の考えは
昔からわからない

今後
どうなるか…

からまつぅ?

ああ…いや
着いたぞ

へ?
え…うわ!

そうだ

オアシス…?

ちゃぷ

あったかい…

ああ
不思議だろう？

決して枯れない秘泉

これは
あの青い雨が
溜まってできたと
言われてるんだ

麗しき恋人たちに
ふさわしい
逢瀬の場…

青き水につかる
お前は
カマルも妬かずには
いられまい

フッ

女神もかくや
だからな

……

なで

ちゅ

！

……父は
ハレムをよしとせず
母だけを愛した
ここで
求婚したんだそうだ

年に一度は
家族でここに来て
天幕を張って
楽しく過ごしたものだ

簡単に
崩れ去った
幸福な日々

最近
よく思い出す…

だが
辛くはないんだぞ？
今はただ懐かしい

お前のおかげだ

だが
どうなろうと

おそ松だけは
失いたくない

ん…俺は
ずっと一緒だからな

だいじょーぶ

ぎゅ…

先のことは
わからない

ああ…

もしまた
この手が離れたら
今度こそ
オレは――…
ん♡
は…
からまつぅ…
ここで
踊っちゃう…？
ん
いけない花だ
オレを誘惑して…
ひあ♡
み

ぁ、あ…
だめぇ♡
ちゅく
にゅく
ちゅっ
あっ
おれ…それよわいい…♡
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
愛おしい…
知ってる…
おそ松という存在
全てが

だめだと甘い声で鳴いても
オレを受け入れて拒絶しない体
初めて抱いた夜も
ひそかに震えながらも未知の恐れに耐えていた
無理を強いた時でさえも
おそ松がそうしてくれてるという事実が
あ゛ぃらめっらめっ
でちゃ♡でちゃうっでちゃう♡
カク
カク
じゅぽっ
じゅぽっ
今はただ愛おしくてたまらない
カ

ぎゅん
ぎゅん
ぎゅん

…っく…
あ
ぁ…おっき…
きもひぃ…よぉ
ひんっ
ぐちょっ
ぐちょっ
あ♡
からまつぅ
すき…すき…
あいしてるぅ…
ずっと…っ
おまえのために
おどるから…ぁ
はぁ
はぁ
おそまつ…っ
ああ
信じてる…っ
ひぁ
信じたい
この幸福は
永遠だと

オレの花
オレの愛
オレのすべて
ちゅぱ
だが
次に
お前の手が
離れたその時は
愛してる――…
オレの心が
死ぬ時だ――